

「児童クラブって……こんなところですよ」

堰本地区の皆さん、初めまして、私たちはせきもと児童クラブです。

児童クラブとは、主に共働気で日中保護者が家にいない小学生をお迎えの時間までお預かりしている場所です。私たちのクラブは、堰本地区交流館の中の一部屋を借りて、児童27人、支援員3人で運営しています。

毎日、「ただいま」と学校から元気に帰って来て、宿題をやり、おやつを食べ、いろいろな遊びやスポーツと、男女や学年の区別なく楽しく過ごしています。そんな中で、行った行事や地区の方々とのふれあいなどを紹介したいと思います。

一番の特徴は、交流館の中に調理室や大研修室があり、とても恵まれた環境にあるということです。調理室では、子どもたちと豚汁やカレー、ロコモコ丼など、いろいろな料理に挑戦してきました。また、親子行事として、餅つき大会やギョウザの皮でピザ作り、親子運動会など保護者の皆さんとも楽しい思い出を作っています。

地域の方々とは、月に一度「梁川ざつと昔の会」の方がお話しや手遊びを、またボランティアで手品や工作をしてくれる方など、たくさんの方のふれあいがあります。昨年は交流館の方のご好意で地域の文化祭に子どもたちの写真を展示させていただき、クラブの様子

せきもと児童クラブ



見てもらうことが出来ました。

1年〜5年生まで1部屋で過ごしていることで、上級生が下級生の面倒をみたり、下級生は上級生にいっぱい刺激を受け成長していく姿があります。

クラブ目標でもある「人の気持ちがかかる子になるう！」に向かって、これからも学校・地域・保護者の方々の力を借りながら、子どもたちのために少しでも有意義な時間を過ごせるクラブにしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

(遠藤)



手品教室 (上) 料理実習 (下)



活動紹介

スマイル会 (鈴竹地区)

スマイル会は、子育て世代が同じ方々で2年前に発足しました。ご夫婦で参加されているお宅も多く、現在の会員は17名です。

発足当初はお茶会が主体でしたが、次第に絆がたかくなり令和元年度は、廃品回収・集会所清掃・花植え等と活動の幅も広がりました。

- 活動日 不特定
- 会費 なし

- 代表 原田幸一郎
- お茶会の時は 一軒一品持ち寄り



御遺志のご報告

(平成31年4月〜令和2年3月)

- | | |
|-------------|---------|
| 山本 孝浩 様 (故) | 山本 恒雄 様 |
| 松本 明 様 (故) | 松本 留吉 様 |
| 富沢 政勝 様 (故) | 富沢 ハナ 様 |
| 幕田 則幸 様 (故) | 幕田 弘三 様 |
| 末永 佳之 様 (故) | 末永喜美子 様 |
| 渋谷 守之 様 (故) | 渋谷 和夫 様 |
| 橋 直紀 様 (故) | 橋 勉 様 |
| 八島 勝男 様 (故) | 八島チヨノ 様 |
- お寄せいただきました寄付金は、地域福祉向上のため大切に使用させていただきます。ありがとうございます。
- 堰本社会福祉協議会 会長 橋内 武

編集後記

【編集委員ひとこと】

(S) 花はそれでも咲いてくれる。雑草もいつものように伸びてくる。ここには「当たり前」があるのになんかイルスが・もう沢山です。ね。

(H) 堰本の桜を撮りました。新田の一本桜、間野橋の桜、笠石観音の桜、そして小学校を見ると児童たちが早く笑顔が学校にも戻りますように。(R) 「何でもないような事が幸せだったと思う」高橋ジョージの歌「ロード」が頭に浮かぶ毎日、今はとにかく感染に気を付ける他術無いのです。ね。

(kazu)

スナップエンドウの収穫と並行してキュウリの植え付け準備中。昨年初めて作ったパプリカも育苗中。2020年は最高の年にしたいな。何かと大変な昨今ですが頑張っ

て過ごしましょう。表紙写真は、青空のもと小学校の桜と授業を受けている姿と合わせて撮影しました。

人と地域を育む愛宕の里 せきもと
令和2年春号 (季刊誌)

里づくりせきもと

発行：せきもとさとづくり推進協議会

活動報告

● 堰本高齢者学級・教養学習 「邦楽新春の調べ」開催



1月31日、堰本高齢者学級の教養学習として邦楽新春の調べを開催しました。

講師には各地で様々な演奏活動している梁川在住の今井仁さん、今井節子さん、八巻幸一さんの3人にお願いしました。

曲目は「春の光」、「鹿の遠音」、「会津幻想曲」など、9曲の箏、尺八、篠笛の演奏でした。参加した34人は、日本の伝統的な楽器の美しい音色の調べに、心静かに浸りました。

今まで堰本高齢者学級として活動して来ましたが、令和2年度から「堰本いきいきカレッジ」と名前を改め、堰本地区の熟年層中心の交流と生きがいづくりに取り組みます。

追って地区の皆様にお知らせいたしますので、ぜひ、申し込んで一緒に楽しみましょう。お待ちしております。

● 堰本婦人セミナー・教養学習 『元気歌声教室 楽しくうたおう』開催

1月28日、伊澤幸子先生による教養学習は、はじめに 準備運動で姿勢や呼吸法を学びました。

続いて、先生のピアノ伴奏にあわせて『冬のうた』から、「たきび」、「雪」、「冬景色」など6曲を声高らかに歌いました。

次に『リズムは体で』から「幸せなら手をたたこう」、「村の鍛冶屋」、「証城寺の狸囃子」、「山の和尚さん」などを手拍子やステップを加えて歌いました。次第に体が暖かくなりました。そして次は小関裕而作品から「とんがり帽子」、「長崎の鐘」の2曲をしつとりと歌い、最後に「カレンダーマーチ」で賑やかに終わりました。



電車の線路を切った物を実際にたたき、つち打つひびきの鍛冶屋の音をだしながら、リズムカルに歌うことができました。

参加者は10人と少ないながらも、『楽しくうたおう』は目標達成できました。

歴史学習 「伊達家15代晴宗公生誕500年 記念を語る」を学ぶ

2月27日、堰本地区交流館大研修室で歴史学習を開催し、堰本高齢者学級生はじめ郷土史研究会会員など地区の方々38人が聴講しました。今回のテーマは、「伊達家15代晴宗公生誕500年記念を語る」として、NPO法人伊達市梁川町郷土史研究会の木村清四郎さんを講師にお話しいただきました。

伊達晴宗は1519年、14代当主・伊達植宗の長男として生まれ、1533年（天文2年）、室町幕府12代将軍・足利義晴に拝領し、晴宗と名乗りました。1542年（天文11年）、父の植宗と7年にわたる伊達家の大きな内乱が起こり、周辺の大名も敵味方に分かれ、父子の戦いが続きました。天文の乱は、植宗側が当初優勢で、その後、晴宗側が形成を挽回し1548年（天文17年）抗争が終結し、6年に及んだ内乱は事実上、晴宗の勝利となりました。歴史の資料によると、晴宗の政治姿勢や外交関係から見て、晴宗は奥羽で最有力の大名として室町幕府から認められていたことを示しています。



ひろせJFCスポーツ少年団 団員募集 中

団員募集内容

対象は、小学1年生～6年生。梁川小、堰本小、掛田小、月館小の子どもたちが現団員として楽しく活動しています。

未経験者、未来のなでしこ大歓迎です。体験時は運動のできる服装ならボールやスパイクがなくても大丈夫です。堰本小学校グラウンドでお待ちしています。

事前にご連絡の上お越しください。

活動日 毎週水曜日・土曜日・日曜日・祝日
活動場所 堰本小学校グラウンド、体育館
申込先 監督 高野 裕
TEL 090-825514896

揃いのユニフォームで勢揃い！
今はコロナの影響で思うように練習できないけど、一緒にサッカーボールを蹴って、みんなでサッカーやろう！
待ってるよ！



令和2年度 せきもとさとづくり推進協議会 第5回定期総会は書面決議で

せきもとさとづくり推進協議会の令和2年度第5回定期総会は、本来であれば5月末日までに開催しておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大が懸念され、緊急事態宣言が出される中での開催が困難で、代議員の書面決議により5月10日まで集約し、15日に集計によりほぼ全員が提出し、提出者全員の賛成で可決しました。

議決された案件

- 承認第1号 令和元年度庶務報告
- 承認第2号 令和元年度決算報告・会計監査
- 議案第1号 規約の一部改正
- 議案第2号 令和2年度事業計画
- 議案第3号 令和2年度会計予算
- 議案第4号 令和2年度役員選任

役員は昨年の総会で2年任期となっており、副会長の佐藤芳博さんが退任し、新たに末永明さんが就任しました。理事についても町内会長さんが担当するため、交代した町内会長が新任の理事となります。

地区の皆様のご協力で推進協議会の事業を進めたいので、よろしくお願ひします。

みんなで心がけて、 新型コロナウイルス 感染拡大防止を

世界規模で蔓延している新型コロナウイルスは、多くの死者を出して、感染力の強さに驚きます。国は緊急事態宣言を出して、国民に行動の自粛を求めています。

- ① 一人ひとりができることは、こまめに正しい手洗いの励行を
- ② 咳エチケットを心がける
- ③ マスクの着用、ハンカチ等で口・鼻を覆う
- ④ 換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・間近で会話や発声をする密接場面の三密を避けて

一人ひとりの心がけが、自分や家族・周りの人々を守るにつながります。

寄贈のお知らせ

座椅子をいただきました

堰本社会福祉協議会から4月23日、和室利用にと座椅子10脚の寄贈があり、会長の橋内武さんが届けてくださいました。本当にありがとうございました。

膝が痛いとかで、座ることが厳しい方も多くいらっしゃると思います。和室使用の際は、是非ご利用ください。



ありがたい食事



薬師寺住職
山本孝浩

最近のテレビはグルメ番組などが多く、おいしいかどうか味が中心に報道されていますが、食事の意味はそれだけではありません。

比叡山延暦寺の修行は精進料理で、食事作法がありお経を唱え感謝の心でいただきます。一切音を立ててはいけない(会話厳禁・器を置く音等)・器は必ず手にとつて食べる・一切残してはいけない等、食事も修行のひとつと考えられています。

精進料理はひとつの素材をとことん生かし切ることが大事で一粒のコメ、一片の葉や根も無駄にしない工夫して一皿の料理を作りあげるよう日々心がけるのが基本です。

食べる前に「食前観」を唱えます。吾今幸いに、仏祖の加護と衆生の恩恵によってこの清き食を受く。謹んで食の来來をたずねて味の濃淡を問わずその功德を念じて品の多少を選ばじ。

「いただきます」意味ですが、私は今幸せなことに、仏様のお力と生きとし生けるもの恵みによりこの清き食事をいただくことができます。心からこの食事の由来を考え、食事の多い少ないはいません。

毎日三食の食事で皆様がいかですか？ 心こめて料理した奥様に感謝の気持ちを伝えていきますか？

「いただきます」とは、私の命のため動植物の命をいただきますからが語源で、古くから人は自然の恵みをもたらして生きてきました。多くの生き物を犠牲に命がつながり合っている生きています。偉大な自然への感謝を表した言葉です。



薬師寺の正門に咲く桜、きれいに咲き誇っていました



神事のお手伝いを



秋葉十二さん
秋葉自動車経営
大関大門地区在住

笛や太鼓を楽しんで約40年新田愛宕神社獅子踊りに関わって20年。10年前には獅子踊り披露に台湾・舞之祭りに参加して来たとのこと。

『最近では神様のお手伝いをしてるんですよ』

『えー！ くるま屋さんがあ？』でインタビューがはじまりました。県北地方に伝わるお神楽を継承する楽人会から声をかけられ、入会して15年、狩衣(かりぎぬ)や浄衣(じょうえ)と呼ばれる神事に関わる装束を自分で用意し、神葬祭など福島市、伊達市のほか、伊達郡内の名だたる神社約10カ所でも式典のお手伝いをしていくそうです。

平成26年には「水雲神社の御神楽」という自主DVDを完成させました。

舞は、伏黒・水雲神社の宮司さん、太鼓は保原の楽人仲間、楽(笛)は秋葉さんが担当したそうです。

DVDは後継者に正しく伝えようと12のパートに分かれ、剣の舞・扇の舞・雅の舞の3部がそれぞれに全体・正面・横からと撮影されていて、伊達市・伊達郡の各神社に配られたとお聞きしました。

他にもチンドン屋メンバーとして、各種イベントへの参加や福祉施設などの慰問で特技を生かした趣味を楽しんでおられました。

また、このコロナ禍で大好きな大型バイク・ハーレーダビッドソンは車庫でピカピカに手入れされ、遠乗りを待っている状態でした。

友達には「何が本業なの？」と笑われています(笑)とのことでした。

ハッピーちえちゃんたちとチンドン屋さん



地域の方々紹介

命をいただく 命を守る



佐藤 康さん
新田荒野地区
伊達市有害鳥獣捕獲隊梁川隊長

現在84歳の佐藤康(やすし)さん。3月4日、自宅にインタビューに伺いました。その日も午前中ワナの確認に出かけていて、午後から帰ってきたところに話を聞きました。

猟銃の許可を、昭和49年10月に取得し、合わせてワナの資格も持ち、狩猟歴は長い。梁川町の時代から有害鳥獣捕獲隊に従事し、現在、伊達市有害鳥獣捕獲隊梁川隊長を担っています。

職歴はバス運転手として交通会社に勤め62歳で定年退職。その後、介護施設の送迎運転を10年間勤め、現在は、シルバ一人材センターに勤務し、市の文書配達業務で栗野地区および堰本地区を回っています。

現在、有害鳥獣捕獲は梁川地区に捕獲隊員が18人。うち猟銃15人、ワナ14人が資格を持っていて、イノシシ・サル・ハクビシン・カラスなどの有害鳥獣駆除を実施しています。

時にはクマもワナにかかり、県の捕獲許可を急いでもらうこともあります。隊員が一番若い人で60代後半、若い人が入ってこない為、今後高齢化が悩みです。

また、耕作放棄地も増えているため、山は荒れて、以前は広瀬川の東側だけにいたイノシシは川を渡って細谷地区まで来ています。春になるとジャガイモの種いもを食べたりタケノコや豆類を荒らしていきます。

箱ワナは堰本に10箇所位仕掛けています。くくりワナは人の通らないような所にかけますが、地区の皆さんはワラビ採りなどに行く時はイノシシやワナに注意してください。

イノシシは県が一般社団法人福島県猟友会に委託して駆除を行っています。市の捕獲従事者は80人。今年は今県1700頭の捕獲目標で行っています。震災後多い時は年7000頭目標だった時もあります。捕獲したイノシシは5kg単位に切り分け、処理場で焼却処分します。皮は伊達市農業振興公社に納め、イノシシ皮製品となります。



愛犬・チップ

農に魅せられて



國分喜行さん
福島県福島市より移住。
大震災直後、浅間地区在住

私は、東日本大地震と原発事故があった2011年7月に堰本の細谷に移住してきました。当時は原発事故による放射能の影響で、地域の農業が危ぶまれていた時期で、この地域で新規就農するには決して良い時期ではありませんでした。

しかし、農業全体が停滞を強いられている時だからこそ、むしろ私のような素人にも何かしらのチャンスがあるはずだと無謀にも当時の私は考えていました。

この地を選んだ最大の理由は「柿の木」でした。果樹の中でもとりわけ生命力が強く、寿命の長い柿の木に計り知れない可能性を感じていたからです。古くからあんぼ柿の産地として知られる梁川町で、家の周りに立派な柿の木が並ぶ立地を見た瞬間、「ここだ!!」と。

移住1年目はひたすら畑の再開墾作業に明け暮れ、来る日も来る日も長年放置された畑を覆いつくす篠竹や葛つる等の雑草と刈払い機一つを武器に闘い続け、半年かかって全ての畑を耕作

可能な状態に戻すことができました。2012年春から念願の耕作開始！とは言っても当時はあんぼ柿そのものが出荷規制の対象になっていたため柿は全く売り物にできず、手当たり次第に野菜の種や苗を買っては畑に植えていきました。しかし、栽培のノウハウも持たず、農業も化成肥料も使わずに栽培しているわけですから、当然多くの作物がろくな結果は得られず、最初の数年は挫折と試行錯誤の連続でした。徐々にこの土地と自分に合った作物を見つけ、現在はサニーレタス、ナス、ピーマン、ズッキーニ、ジャガイモ、カブ、大根等を季節に応じて栽培できるようになり、そして念願のあんぼ柿も4年前から自分で干して製造できるようになりました。

また5年前に結婚し、今は妻と3歳の息子とともに農作業に子育てに充実した毎日を送っています。ここに越して来た当初から現在に至るまで、本当に多くの地域の方々から助けられながら今の自分がいて、私自身も微力ながら地域の中の役割を担っているという実感が、この地域に対する愛着をますます強くしています。

この地域の住人になれたことは、結婚や子宝と同様、最も大きな幸せのひとつです。

堰本いきいきカレッジ、堰本女性セミナーの参加費は無料ですが、材料費はご負担いただきます。また新型コロナウイルスの状況によっては開催が遅れる場合もあります。ご了承ください。なお、堰本いきいきカレッジについては、詳細決定次第、お知らせいたします。

☆ 堰本いきいきカレッジ ☆ New 企画

堰本地区にお住まいの方、あるいはお仕事で堰本においでの方ならどなたでも参加できます。老若男女問いません。学びの意欲をお持ちの方歓迎です。開催案内はその都度、事前にお知らせします。ご一緒しませんか。

期 間 令和2年6月～令和3年2月

場 所 主に堰本地区交流館

学習日 毎月 第三火曜日 午後1時

内 容 ○ふるさと学習（堰本の史跡巡り） ○工芸学習（文化祭出品工芸）
○教養学習（講演・議会傍聴）（津軽三味線歌声講座）
○交流学习（ミニクッキング） など



☆ 堰本女性セミナー ☆

みんなで楽しく学びあえる女性教室に参加しましょう！

期 間 令和2年6月～令和3年2月（月1回）

場 所 主に堰本地区交流館

参加費 無料。ただし実習教材、移動学習時のバス代は一部ご負担いただきます。

内 容 教養・健康・手工芸・見学・奉仕など、メンバーで話し合いながら進めます。

申込先 6月5日（金）まで堰本地区交流館の受付に直接お申込みください。（後日、開級式の日程をお知らせします。）



[お問い合わせ]
せきもとさとづくり推進協議会 577-6277
担当：菅野幸子、佐藤恵津子

令和元年度「堰本地区のさとづくり」

標語決定!!

令和元年度の堰本地区のさとづくり標語を堰本小学校児童に募集し、厳正な審査で次のように決定しました。標語看板は、3月末に地区内に表示しました。



受賞した児童たちと、左端に高見堰本小学校長、右端に佐藤英吉副会長、渋谷基昌会長
堰本地区に14枚の看板が表示されています。
全部見つけられるかな？

1年 渡邊 涼太さん
「せきもとは くうきがうまい しあわせだ」
1年 大橋 心陽さん
「せきもとは ゆたかでやさしい 人のさと」

2年 佐藤 大雅さん
「きらきらと のきたかがやく あんぼがき」
2年 佐藤 陽乃風さん
「あいさつは こころをつなぐ 第一歩」
3年 霜山 尚太郎さん
「じこのない へいわなせかい つくろうね」
3年 幕田 幸穂さん
「せき本は やさしさあふれる いいとろ」
4年 浦野 あずささん
「あいさつを えがおですれば みんなえがお」
4年 佐藤 怜愛さん
「にこにこ 笑顔がすてき 堰本っ子」
5年 佐藤 志保さん
「あがらんしよ」堰本流のおもてなし」
5年 引地 凌介さん
「堰本は みんな仲良し いじめなし」
5年 長沢 成 さん
「笑顔 まん開 堰本の里」
6年 桃井 剣大さん
「しめ縄の 伝統受けつぐ 子供たち」
6年 高野 結衣さん
「堰本は 笑顔絶えない すてきな町」
6年 小賀坂 由依さん
「あいさつは 地域をつなぐ 宝物」

地域環境の整備

3月に地域の方のご協力を得て、防火水槽の塗装を実施しました。元年度は上原地区内2カ所を実施。右が完成写真。左上は作業前、左下は作業中。新品同様となり大変満足の仕上がりとなりました。令和2年度は4カ所の防火水槽塗装を予定しています。



作業をしていただいた方は、鈴木健一さん（原）、山下重雄さん（道林）のお二人です。お忙しい中ご協力ありがとうございました。



作業前

作業中